群馬県環境アドバイザー会報

グリーンニュース　第４６号

発行年月日　平成　２３年　３月　２５日
発行責任者　群馬県環境アドバイザー連絡協議会
代表　鈴木　克彬

環境アドバイザー重点行動テーマ

行動する環境アドバイザー

・・・研修・情報交換の場を広く・・・

上毛三山のひとつ妙義山の南麓にある「さくらの里」から見る妙義の岩峰です。
ここには開花期が異なる４５種類約５０００本の桜が植えられており、４月中旬から５月中旬にかけて鋭鋒を背景に桜を楽しむことができます。

環境アドバイザー、320名登録（平成23年2月28日現在）

21年度4月より、第8期県環境アドバイザー登録者（登録期間：平成21年4月1日～平成23年3月31日）は、平成23年2月28日現在、320名の方の登録をいただいており、各地域で活躍されています。

本年度も引き続き、環境アドバイザー事業にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

県では随時、第8期の環境アドバイザーを募集しています。周りの方にもこの制度についてお話しいただき、環境活動に取り組んでいただける方々に紹介していただければ幸いです。

携帯でサポセンブログを

22年度環境アドバイザー研修会開催

環境アドバイザー研修会を行いました。

第 1 回は「あてまの森」で参加者 29 名でした。2 回目の今回は「エコドライブセミナー」として環境アドバイザー以外の方々と一緒に行われました。

前半は座学を行い日本自動車連盟(JAF)の松岡氏より、「エコドライブ講習」を、続いて環境政策課の西嶋より「尾瀬とエコドライブの接点」の講演を行い、後半は利根川の河川敷にて EV 車両の運転体験を実施いたしました。

試乗車両は県庁公用車のプラグインステラ、群馬三菱自動車(株)よりi-MiEV、群馬日産自動車(株)よりリーフのEV車両があり、トヨタカローラ群馬(株)から販売予定のプラグインプリウスを準備頂き試乗する事ができました。

環境アドバイザーは12名の方に参加頂き、4台の車を何回も試乗をされていた方も多く、EV車の力強い加速力に感動されていました。

日独修好 150 周年記念

ドイツ５ヶ所で 能舞台・ベルリン 観客は 1,000 名

◎ ドイツとのかかわり

私は群馬県環境アドバイザーの他に、ぐんま日独協会の役員をしており、その関係からドイツを度々訪問する機会があります。

そして今年が、江戸時代に日独通商友好条約を締結してから、150 年目という記念すべき年になるため、それを記念して，ドイツ国のベルリン、ミュンヘン、エアフルト等 4 ケ所 5 会場で、『能公演』が行われました。今般、ドイツ在住の友人からのお誘いもあり、私達二人は訪独し、能舞台を鑑賞する機会を得ましたので、その概要を報告します。

◎ 会場は満席、キャンセル待ちも・・・

能出演者は、金春流 18 名のグループで、文化庁、駐独日本大使館、日独文化センター等の後援・協力で実現されたようで、演目は、1/19(土)のベルリンが“舟弁慶”、1/20(日)が“葵の上”、1/24(月)のエアフルトは再度“舟弁慶”でした。

驚いたのは、観客数で、1,000 席程のベルリンのホールでは、キャンセル待ちが出るほどの人気であった。日本人関係者は、ほんのわずか、若者を含むドイツ人が 95%と満席。・・エアフルトも 800 名分の前売りが完売したとのこと・・

◎ 肌で感ずる双方の熱気

「能舞台を見て、ドイツ人は本当にわかるの？」と皆さんは思われるでしょうが、主催者側の配慮で、すべて同時通訳付き、事前解説も約 30 分間行い、また公演のセリフも同時通訳とともにドイツ語の字幕が正面に出るため、物語の内容も含め、案外理解出来るのかもしれない・・とも思われた。

観客の熱意は相当高く、終わった後もアンコールの拍手が鳴りやまず、遂に『高砂』を披露されることとなった。とにかく、“多くのドイツ人が日本文化を理解しよう、という高い意識を持っている”ことを実感した。

私も日本人の一人として、『日本人はもっと自分たちの伝統文化を大切にし、その特徴・奥深さを理解しようとする努力が大切ではないか・・』と改めて感じた今回の旅であった。

（連絡協議会代表　鈴木克彬）

専門部会

高浜クリーンセンター見学雑感

本部会は、昨年7月28日に桐生市広域清掃センター見学会を、11月21日に高崎市総合福祉センターに於いて事例発表会を、12月20日に高崎市高浜クリーンセンター見学会を実施しました。ここでは12月に行われた高浜クリーンセンター見学の報告をさせていただきます。

桐生市広域清掃センターはゴミの最終処分までの見学でしたが、今回の高浜クリーンセンターはリサイクル工程の見学を狙いとしたものでした。高浜クリーンセンターでは日に約573tのゴミを処理しています。その内の450t（約78%）が焼却処理施設分で55t（約10%）が粗大ゴミ処理施設分、残りの68.5t（約12%）がリサイクルセンター分となっています。公害の発生防止と安定的な操業を第一に運営されています。リサイクルセンターでは缶類（約20%）はアルミと鉄に分別圧縮され、ビン類（約24%）は透明・茶・その他に分別洗浄され、古紙（約54%）は圧縮梱包され、ペットボトル（約2%）も圧縮梱包され各々の再生業者に売却されています。

ところでゴミ＝廃棄物とは一体なんでありましょうか？排泄物ではありませんが似たようなものかも知れません。私たちが生きている以上出るもの・・・ですね。私たちの責任で適切に処理されるべきものです。そのためゴミ集積場より先は貴重な税金を使い処理されています。群馬県全体で年間約213億円（平成19年度環境政策課資料）がゴミ処理費用としてかかっています。ゴミを減らすことにより処理にかかる税金を減らし、限りある資源を大切に使い、使い終わったものでも、もう一度使えるようにする。

いわゆる3Rをキーワードとする『循環型社会』に私たちの生活を変えてゆくことが必要だと思いを強くした一日でありました。

（ごみ部会　山田一朗）

専門部会

地球環境問題について

快適な生き方と利便性を求めるために発展してきた人間社会は多量のエネルギーを消費し、その源を化石燃料に頼ったことから大気中の二酸化炭素濃度を上昇させ温暖化と云う事象を引き起こしています。

地球環境問題は温暖化をはじめとし、それぞれ多数の異質の要素が複雑に絡み合った問題です。特に地球規模では多国間にわたる利害関係や認識の異なりなどをいかに調整し広範囲での合意を形成していく面でも難しい問題が多いでしょう。

さらに世界的に最大の課題とされる貧困脱却に向けて経済成長を第一義とする開発途上国とこれまでの経済発展の過程で地球環境問題を作り出したことに大きな責任を有する先進工業諸国の間で、今後どのような協調関係を作り出すのかなど有限な地球の上での将来ビジョンを描きだすことは容易ではありません。

問題解決のために革新技術の開発はもちろん重要ではありますが、今必要とされているのは社会システムの新たな設計であったり個々のライフスタイルや価値観の転換ではないでしょうか。

(自然環境部会長　宮崎 亮二)

―参考資料―　放送大学教材「環境と社会」より

専門部会

我が家のエコベビー

去年、秋に二人目の男の子を出産した子育て世代の梅山です。地域の方と交流しながら環境活動をしたく、環境アドバイザーに登録しました。部会には、バックグランドの様々なアドバイザーさんと議論したり、活動したり楽しく参加していましたが、最近はなかなか参加できず、子育てをしながら環境についてできることは何か、考え取り組んでいます。

私の取り組みの中の一つに、布おむつの使用があります。紙おむつはとても使い勝手がよく、使い捨てができ便利で助かりますが、赤ちゃんとはいえゴミの量がとても多いのです。6kg の赤ちゃんで、１日約 1kg、2L のゴミが出ます。そこで毎日ではないのですが、昔のママはえらいなと思いながら布おむつを使い、資源の節約やゴミの減量に励んでいます。しかし考えてみると、布おむつでさえ排泄物を下水に流し、洗濯に水と洗剤を使い環境に負荷をかけてしまいます。このチャレンジで、人間は少なからず、環境に負荷をかけながら生きているんだと考えさせられました。（昔の衣食住は自然循環の中に組み込まれていたのでしょうが･･･）

我が家に１人の人口が増えたことは、日本の少子化にはプラスですが、地球環境問題の原因である人口増加にはマイナスになりました。赤ちゃん自身の未来のために、少しでも環境にマイナス(負荷)の少ないエコベビーを目指して、日々考え、楽しい子育てをがんばっています。

ちなみに夫は私の強制により、雨の日も自転車通勤のエコサラリーマンです。

（広報部会　梅山さやか）

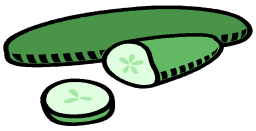
地域トピックス

野菜づくりで思ったこと

現在 10 アールの畑に無農薬、有機栽培をモットーに多品目の野菜を栽培して、近くの直売所に出荷している。

昨年は、異常気象で気温を高く病虫害が多発して、野菜栽培に苦慮した。

苦心を重ねどうにか曲ったキュウリや、虫の喰ったキャベツ、コマツナが収穫出来たので、早速

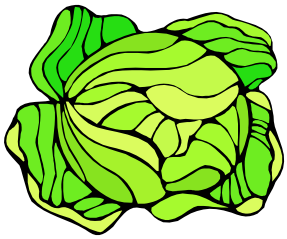


直売所に出荷したが、値段は安く、虫の喰っている野菜は買って貰えず廃棄処分にした。やっと買ってもらったキャベツの中に虫が潜り込んでいて、苦情を云われ困ってしまった。

ある日、公設の青果市場に見学に行き、並べられている青果物を見て驚きました。

きれいに磨き上げられ、光沢も良く、真っ直ぐに揃ったキュウリ、虫の喰ってない葉物野菜は、まるで芸術品を見ているようでした。

これが、消費者の求めている野菜なのだと分かり途方に暮れました。このような野菜は、農薬や化学肥料をふんだんに使用して栽培しないと収穫、出荷できません。



農薬による環境汚染が社会的に問題になっている中、無農薬有機栽培に心ある農家がいくら努力し頑張っても、消費者が曲がったキュウリや虫の喰っている野菜を喜んで、率先して買ってくれないことには経営が成り立たないことを知り落胆した。

消費者も、農産物生産の複雑さ難しさを知って、報道されている一部分に基づいて論じるのではなく、もっと本質を見て生産者に協力して欲しい。

消費者の理解と協力なくして農産物の生産現場から農薬や化学肥料を減らしたり、無くしたりして行くことが如何に困難で有るかを野菜づくりで実感した。

(前橋地区　宮崎　高志)

地域トピックス

桐生・みどり地区環境活動

私たちが活動している桐生・みどり市は県東部に位置し、足尾山中に源を発する渡良瀬川が流れ、その支流に多くの清流を有し赤城山を北面仰ぐ自然豊かな地域です。

活動としては平成 21 年秋、赤城山利平茶屋キャンプ場内に九輪草の苗の植栽や種まき、アイリスの植栽を多くの人の協力を得て行いました。この活動は平成21年秋から5年計画になっています。また、みどり市小平の里知ないで6月にホタル鑑賞会を開催し、清流の保護と環境への理解を求める活動を行いました。10 月には荒れ地になっていた田 3 反(30 アール)を耕して菜の花を蒔き環境美化に努めた結果、翌春には見事な花が咲き人々を楽しませてくれました。

平成22年春には太田市立養護学校内の花壇に九輪草の苗を植栽しました。また、21～22年には桐生市梅田町、みどり市大間々町小平の山中に自生している絶滅危惧種の鳴神カッコ草(サクラソウ科)の保護育成を目指し、みどり市内に鳴子カッコ草の保護地を設けて育成についての研究を行いました。そして22年秋には、胚芽の成長が難しいといわれるカッコ草の種子を自然交配で採取する事に成功しました。その種子を桐生市立自然観察の森に持参して、現在、その発芽を心待ちしています。

(桐生・みどり地区　鹿沼　薫)

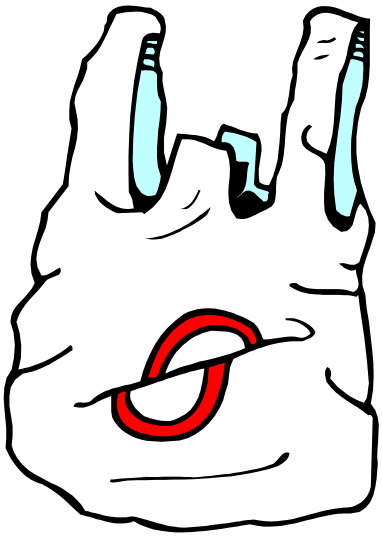
地域トピックス

〝宙に浮いた〞レジ袋有料化

平成 21 年 12 月 18 日の『第4回群馬県レジ袋削減推進協議会』は、レジ袋無料配付中止の一斉実施を平成 22 年 4 月 1 日にすることで決定する段取りであった。

マイバッグキャンペーンは平成14年からスタートし、県下に広がりを見せ、消費者のマイバッグ持参率は徐々に上がってきたが 30%前後で伸び悩み、更に拡大を図って行く方策が論議され〝レジ袋の無料配付中止〞の活動がはじまった。

すでに全国では、14 の県と 245 市町村で〝レジ袋無料配付中止〞が実施されており、協議中の自治体が続いていた。



・『群馬県レジ袋削減推進協議会』が結成され、消費者団体(9)、事業者(14)、全市町村(36)、県の参加により、平成 21 年 8 月 4 日第1回協議会が開催された。

・この間、県内の　事業者別店舗数　が調査され、県内への出店事業者数 62 社、290 店舗がカウントされた。そのスタートとして、14 事業者／178 店舗(参加率＝61.4%)が協議会に参加した。

・平成 21 年 9 月 10 日第2回会議で広範囲な推進計画が協議された。

・平成 21 年 10 月 23 日の第 3 回会議では業者側からの不安意見も出されたことから、個別の意見交換を行った。

・そして第 4 回の会議となった。F社から役員会で不参加が決定されたので、協定に参加できないとの申し出がでた。

最大手のF社が離脱すると参加率は 139／290＝47.9%となり、計画は宙に浮いてしまった。

3 者協議という絶好のチャンスを失った。得をしたのは誰もいない。

私はあれからF社の店舗には行っていない。F社の新聞広告さえも見ない。

いま、店はレジ袋辞退者に 2 円程度のキャッシュバックをしているところが多い。店側は環境に対してそれなりに努力をしていると思う。しかし、消費者側のマイバッグ率が向上している様には見えない、

また振り出しに戻って、マイバッグキャンペーン、マイバッグ率調査をするのだろうか？

（高崎地区会　　生方　輝亘）

〈参考資料〉

レジ袋無料配布中止の県内全域実施　先進県における状況　（H22.9 時点）

	開始			現状		
	県名	協定締結	実施開始	店舗数	事業者数(現在)	マイバック持参率
1	富山県	H20.3.5	H20.4.1	422	44 (H21.4～9)	84.0%　(H21.4-9)
2	山梨県	H20.6.10	H20.6.30	452	37 (H22.6.30)	87.2%　(H22.6)
3	沖縄県	H20.8.6	H20.10.1	252	11 (H21.3.19)	81.0%　(H21.3)
4	宮城県	H20.10.17	H21.2.1	174	32 (H22.7.16)	81.3%　(H22.5)
5	和歌山県	H21.1.23	H21.1.23	215	33 (H22.8.1)	91.4%　(H22.4)
6	青森県	H20.12.18	H21.2.2	336	92 (H22.3)	82-97% (H21.4-9)
7	山口県	H21.1.22	H21.4.1	579	79 (H22.4.1)	89.5%　(H21.7-9)
8	大分県	H21.3.3	H21.6.1	212	28 (H22.7)	85.6%　(H22.7)
9	石川県	H21.3.27	H21.6.1	832	40 (H21.3.27)	
10	福島県	H21.4.14	H21.6.1	196	14 (H22.7.27)	84.7%　(H22.6)
11	岐阜県	H21.4.16	H21.6.1			
12	茨城県	H21.3.27	H21.7.1	262	27 (H22.3)	86.0%　(H22.6)
13	広島県	H21.8.27	H21.10.1	424	29 (H22.4)	86.1%　(H22.3)
14	栃木県	H21.12.5	H22.2.1	100	38 (H22.8.1)	71.3%　(H22.4)
			※一部事業者(35 事業者 72 店舗)は、無料配付中止の取り組みを1時中断中			

参考）市町村単位での無料配付中止　実施状況(H21.3.19 環境省)

(H21.3.19 現在)	16 都道府県	245 市町村
(H22.3 末までの予定含む)	23 都道府県	384 市町村

〈部会からのお知らせ etc.〉

部会	内　容	月／日	時　間	(担当)問い合わせ
広報	GN47 号編集会議(県庁 16F)	5 月 10 日(火)	10:00～12:00	原田(027-344-6088)
ごみ	部会(昭和庁舎会議室)	4 月　9日(土)	10:00～12:00	須永(090-3498-1771)

次回（47号）　2011年6月発行予定　　（原稿〆切5月25日）